

—地域共生社会の実現に向けて—

目黒区社会福祉事業団
理事長 鈴木 勝



社会福祉法人もえぎの会様におかれましては、親の会の皆様による活動開始以来、凡そ半世紀の長きにわたり、地域に根差した障害者福祉、利用者支援の充実に尽力されてこられましたことに、先ずもって深く敬意を表します。

わたくしは、昨年の10月に現職に就任いたしました。それ以前には目黒区職員、副区長として長く目黒区の行政に携わって来ましたが、予てより、地域での障害者福祉事業を積極的に展開されている、もえぎの会様はよく存じ上げますとともに施策にも多大なご協力も頂いておりましたことから、改めて感謝いたします。

さて、もえぎの会様は、発足以来、通所事業(生活介護、就労継続支援B型、就労移行支援の各事業)並びに入所事業であるグループホームの運営を軸に事業を拡大されてきました。平成30年3月に開設された4か所目のグループホーム「沙羅の家 清水」には短期入所2床と目黒区からの委託事業である「地域生活支援拠点事業」を併設され、その活動も順調に軌道に乗りつつあるとお聞きしております。

この新たな取り組みは、地域で暮らす障害者の重度化や高齢化などを見据え、日常生活及び社会生活支援に必要な、相談機能、体験の機会・場の提供、緊急時の受け入れ・対応、専門的人材の確保・養成及び地域の体制づくり等を行うもので、文字通り地域における障害者支援の拠点となるものです。

こうした活動は、国が掲げ推進している、地域包括ケアシステムの構築にほかならず、地域の住民の、障害者だけでなく高齢者、児童も含めた福祉の理解につながり、共に助け合う”地域共生社会の実現“を可能にするものだと考えます。

現在、日々利用者サービスを提供する福祉事業者にとりましては、令和2年当初から蔓延し、未だに終息の見込みが立たない新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、大変難しい運営を求められています。もえぎの会様にはおかれましては、引き続き、これまでと同様に積極的な活動を展開され、益々発展されることを心よりお祈りします。

第21回 ウィズコロナのリモートしいの実祭 開催のお知らせ

11月26日(土)のしいの実祭は、例年通りの実施はできませんが、地域の皆様と交流し、理解を深めていただくために、昨年同様にウィズコロナ時代に感染症対策を徹底して、安心、安全なイベントを実施します。

コロナと戦っている経験を活かし、元気に活動しているしいの実社の現状を見ていただきたいと思います。しいの実社の利用者も、お祭りを楽しむとともに、皆様とお会いできることを楽しみにしています。

ウィズコロナの リモートしいの実祭 第20回

カタログでの
開催！

ご好評のカタログ
さらにハイアット



※このイベントは、お申し込みをされた2022年10月1日より開催いたします。
開催中に万一の感染症の発生を防止するため、参加者にはマスクの着用を推奨いたします。
当祭りの開催は、今年その開催を断念いたしました。
このままでは、今年その開催を断念いたしました。
2022年10月1日より開催いたします。11月の開催は、今年その開催を断念いたします。
一人一人のみなさんに、開催のご案内をさせていただきます。

第20回しいの実祭

第21回 ウィズコロナのリモートしいの実祭

施設長 小平真理

コロナ禍においても、しいの実社は対策を徹底して、できるだけ変わらず日常の活動を継続してきました。変化に弱い社員が心身ともに安定した生活をするためです。そのため、毎日の作業の積み重ねで、多くの製品ができました。できた製品を多くの人に利用してもらいたいものですが、販売する機会が減らされてしまいました。そこで、製品をカタログにして販売することとしました。

これまでしいの実祭、事業報告会に合わせて4回のカタログを発行しました。コロナで変化を余儀なくされる中、知恵を絞って「ウィズコロナのリモートしいの実祭 カタログ」として2020年が初めてでした。

しいの実祭ですが、館内に大勢の方が入場する通常の開催は難しいため、今年も「ウィズコロナのリモートしいの実祭」として開催することになりました。今回のカタログは、しいの実社の取り組みと重なるSDGsに焦点をあてます。「誰一人取り残さない」というSDGsの国際目標をあげながらクラフトをメインに取り上げています。丁寧に社員が手を加え、リサイクルされている、サステナブルなものづくりを知っていただけるよう作成しました。

11月26日(土)には、施設前でしいの実社の製品販売や学芸大学の臨時開店、新品のみのバザーの開催、「天ぷら割烹 かわさき」の天ぷら販売を企画しております。地域の皆さまに楽しんでいただき、しいの実社を知っていただく機会となるように考えております。

コロナで変化を余儀なくされる

第21回

ウィズコロナリモートしいの実祭

カタログ



「誰一人取り残さない」- この大きな目標に向かって世界中の人々が具体的に取組むために、17の目標が掲げられました。それが「SDGs (エスディージーズ) = Sustainable Development Goals・持続可能な開発目標」。

すべての人が地球が持続可能な世界を築くことのできる世界を、誰もが持続可能な世界で暮らすために、それは、しいの実社が目指すもの。

SDGsはいつもがこれまでにしいの実社がしてきたことと重なりました。

わたしたちの製品を通してSDGsが少しでも実現していくことを願ってカタログをお届けします。

目黒雅叙園 食事会

新型コロナウイルスの感染状況を確認しながら検討を重ね、今年も宿泊研修旅行は困難と判断し、ウィズコロナ日帰り外出の開催となりました。

目黒雅叙園で豪華なランチをいただき、その後目黒雅叙園の企画展「和のあかり×百段階段 2022」を鑑賞することとしました。

例年通り、3グループに分けて専用バスによる送迎、広い宴会場の貸し切り、間隔をあけた座席の配置、換気など、雅叙園と徹底的な対策を確認しました。

いろいろな事が中止になっているので、日帰り外出のお知らせを配ると社員の皆さんはとても嬉しそうで、外出の日を楽しみにしていました。

食事はフレンチのフルコースでメインの料理を魚か肉を事前アンケートで選んでいただきました。

当日は朝からみんなわくわくそわそわして出発するのを心待ちにしていました。

雅叙園から戻ると「楽しかった」「美味しかった」「きれいだった」と笑顔で報告してくれたので、外出企画が実施でき、苦勞が報われました。

実施に際して後援会のみなさまのご支援に大変感謝しております。



雅叙園ロビーで全員集合



百段階段の「和あかり」鑑賞



豪華なランチ

2022年もえぎの会事業報告会コンサート



MGKの先生 衣装も素敵

8月20日(土)に、しいの実社のご近所で音楽教室を開いているMGK(ムジークガルテンクロキ)の黒木弘子代表にご協力をいただき、目黒本町社会教育館のホールでピアノコンサートを開催いたしました。



音楽に合わせてダンスダンス！

毎年開催されるもえぎの会事業報告会の目的の一つとして利用者が非日常を体験するということがあります。みんなで食事をする、普段会えない人と交流する、コンサートを楽しむなどといった日常生活で味わえない楽しみを実施しています。コロナ禍により通常の事業報告会が実施できないので、昨年からは、感染症対策を徹底して、ウィズコロナの事業報告会を開催しています。

MGKの黒木先生は、目黒区のボランティアセンターにも特技ボランティア登録もされ、様々な場所に音楽の贈り物を届けられています。コンサート当日、利用者は椅子に座って生ピアノ演奏に聞き入っていましたが、途中身体を動かして楽しむプログラムや、音楽にあわせて踊る体全体で楽しめる企画をしていただきました。

最初からノリノリの利用者もいれば、最初は反応が少なかった利用者も、気が付いたら前に出てアップテンポな曲に合わせて身体を動かし、

楽しむ姿が見られました。スタッフも、素敵な音楽とともに、利用者の嬉しそうな様子を見ることができ、楽しませていただきました。改めて、音楽のもつ力を感じたひと時でした。

幅広い年代の利用者が楽しめるように企画して、素敵な演奏をしていただいたMGKの皆様に感謝申し上げます。

法人研修

もえぎの会事務局 岡田なおこ

もえぎの会の2022年度重点課題の中で、しいの実社、沙羅の家の連携強化を掲げており、その一環として法人全体研修を実施しております。元々法人全体研修として虐待防止研修を行っており、施設毎には支援の知識を深める研修を実施していましたが、施設によっては研修を行うことが難しく、偏りも生じてしまうことから今年度は事務局で計画し、開催することにしました。直接的な研修以外に普段できないスタッフ同士の交流の機会にもなります。

目的は、業務に必要な支援や地域サービスの知識の取得を目指し、すべての常勤職員を対象としています。初回は6月に、白鳥千恵子氏に講師をお願いし、日々のOJTでは得られない社会福祉法人とはということから自分たちがどのような制度に基づいて働いているのかという基礎を研修していただきました。

7月は、しいの実社の小平施設長から支援について、8月は、沙羅の家の長谷施設長・会田課長からグループホームや地域生活支援拠点について研修してもらい、同じ法人内でも改めて知ったという声もあり相互理解にもつながっています。

今年度は年間5回で計画していますが、下半期には来年度に向けて準備を進める予定です。



沙羅の家 研修

後援会

会員インタビュー

サ 萌 木



ゼネラルボンド株式会社

目黒区大岡山1-37-25

TEL 03-3718-6511

都立大学の緑道沿い、コンクリート建設物の保全・再生を事業とされているゼネラルボンドの後藤栄太会長にお話を伺いました。新築工事は主体ではない中、地縁もあり長い目で必要になる改修も視野に入れ、沙羅の家大岡山の建築を手掛けていただきました。2012年に取材に伺った頃とは求められる仕事の質が少しずつ変わっており、ベテランの知恵や経験だけでなく、新しい技術を使いこなす柔軟性など、変化への対応も求められていると言われていました。今年8月26日をもって、社長も次世代

の達人氏に受け継がれたとのこと。先々代の会長が敢えて新築ではなく、保全・再生事業という恒久に必要である分野に先見の明を向けられ、それを受け継いだ栄太会長はお客様を大切にされるぶれない姿勢をもって、今後10年先を考え世代交代を自身が先頭に立って推進されています。大切なお客様から信頼を寄せられている事業だからこそ、継続するために同じことを続けるのではなく柔軟に新しい風を取り入れるということにチャレンジをされる栄太会長と達人社長。

これからもご近所で沙羅の家の維持でお世話になるかと思えます。末永くお付き合いさせていただきたい素敵な企業でした。



後藤達人社長 後藤栄太会長



社屋外観

内科・循環器内科 あんどろ内科クリニック

岡山市北区野田1-9-115

TEL 086-244-1000

安藤友孝先生は、幼少時によく遊んでいた慣れ親しんだ岡山市北区野田で開業されました。

診察では、患者さんの意向をしっかり伺い、医師として医学的な情報を提供し、通院していただきながら、一緒に方針を決めるようにしています。『受診してよかった』と安心してもらえるよう、『何かあれば相談しよう』とさせていただけるよう努めておられます。

医師を目指されたのは国境なき医師団の講演会がきっかけでした。とても感銘を受けて、小児科医になり講演会に来られた先生方と一緒に活動したいと思われたそうです。しかし、研修医の時に循環器内科で心臓カテーテル治療によるダイナミックな病態の変化に興味を持ち、患者さんの命に直結する専門分野として循環器を選択されました。

しいの実社の利用者のご家族と親しくされており、意義ある存続すべき会と感じており、直接的な後援活動はできませんが、微力ながら協力したいという思いでもえぎの会后援会にご入会いただきました。

前任地の兵庫県では六甲山によく遊びに行っておられました。2021年10月に開業したばかりですが、落ち着いたら岡山の山を楽しみたいそうです。

土地自慢として、日本三大庭園である後樂園は、大好きで、オススメの場所ということです。コロナ禍以前は年始に丹頂が放鳥され、後樂園の空を優雅に舞う姿をみることができ、再開されることを期待されています。

また、桃太郎伝説や室町時代の水墨画家・禅僧の雪舟のルーツもあり、十分に楽しめるそうです。

最後に「引き続き意義ある会として存続、発展させて下さい。微力ながら協力させていただきます。」という温かい応援メッセージをいただきました。



安藤 友孝院長



クリニック外観



目黒区碑文谷で開業され、もえぎの会後援会にも2013年に入会していただいていた以来、お世話になっている笹島雅彦所長にお話を伺いました。

推理小説が好きで、法医学に憧れて医学部に入学された笹島先生は、大学で研究していた胃がんの危険度を知る胃がんリスク検診を、実地に広げたく、開院されたということです。

2月に新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中で、しいの実社がPCR検査を引き受けていただける医療機関を苦労して探していた中で先生に多くの検査を引き受けていただき大変助かりました。先生が医療機関を経営する立場として、また日々患者さんを診察する医師として大切にされていることについて教えていただいたところ、常に自分が受けたい、自分の身内にも勧められる「いい加減」な医療を提供したいとのこと。そして、先生が専門とされる分野についても、「血液検査でピロリ菌感染の有無と胃粘膜萎縮の指標となる血清ペプシノゲンの値で、胃がんになる危険度をみる『胃がんリスク検診』は目黒区民検診だけでなく、全国で広く行われるようになりました。これからは中学生の段階でピロリ菌感染を診断して、感染者を除菌していくことで、日本から胃がんを撲滅する時代にしたいと考えています。」と熱く語っていただきました。

そんなお忙しい先生のリラックス方法は、お酒をのんで、ごろごろすることだそうです。普段、緊張感のあるお仕事で、ゆっくりした自分の時間を持つことの大切さを改めて感じました。

そして、最後にメッセージをいただきました。



笹島 雅彦院長



「新型コロナウイルスは弱毒化していますので、感染しても重症化する危険度は極めて低くなっています。それよりもコロナを恐れて消極的な生活をする中で、生活習慣病や骨粗鬆が進行したり、認知症やうつなどの精神疾患が現れることのほうが心配です。『マスクをとって、外に出ましょう!』」ということです。

もえぎの会でも、障害者が日常の生活と違った生活を強いられて心身ともにペースを乱すことを避けるために、できるだけの対策をして、活動を継続してきました。先生の考えと同じように活動しているので、改めて励まされました。

新規後援会員をご紹介します

年会費 1口1,000円 個人会員 1口以上、 法人会員 10口以上

会費はお手数ですが、直接お持ちいただくか、下記口座へお振込みください。

郵便振込口座 00130-5-667751

口座名義 もえぎの会後援会

問い合わせ先 もえぎの会後援会事務局(電話:03-5724-7153)

* 恐れ入りますが振り込み手数料はご負担願います。

沙羅の家



沙羅の家 避難訓練

世話人 岩井 隆弘

8月11日、各ユニットで防災訓練を行いました。今回向原では、インターネットで、水でカップ麺を作る防災食があることを知り、外への避難訓練と水で戻したカップ麺を昼食に食べる企画にしました。当日は、利用者には時間は知らせずに突発的に避難訓練を開始しました。時間を知らせると外出着に着替えてリビングで待機してしまい訓練にならなくなってしまった経験があるためです。各階の廊下から「火事です！逃げてください」と呼びかけると迅速に避難を開始し、皆さん煙をイメージしながら口を手やタオルで押さえながら階段を下りてきます。鍵を閉めたい、マスクを取りに戻りたい、帽子を被りたいなど色んな要望が飛び交う中、4分程で全員の避難が完了し、そのまま近くの碑小学校まで歩き避難経路を確認しました。



落ち着いて「碑小」に避難



防災食麺をおいしく完食

次はお昼の準備で、お湯だと3分で作れるカップ麺ですが水だとそうはいきません。24分かけて麺を戻します。その間に冷やしたスープとトッピングをして盛り付けてみれば豪華な冷やし塩ラーメンができました。利用者にも好評、スタッフも「美味しい！」と言いながら全員で完食。今回は貴重な体験ができました。これからも利用者と一緒に楽しみながら防災について関心や知識を深めていけるように日々取り組んでいきます。

沙羅の家 大岡山 生活の様子

世話人 清水 俊

大岡山では7名の利用者が、規則正しく、穏やかに生活されています。スタッフは利用者の健康状態に留意しつつ、その生活のリズムを崩さないよう心掛けて生活支援を行っております。認知症を患われた高齢の利用者への支援では、認知症の症状、本人がもとより持っている不安焦燥感、さらに服薬の変更により、グループホームでの生活がなかなか安定しない日々が続いています。その時その時の状態を考え、他の利用者との兼ね合いを勘案しつつ、手探りの状態で高齢者支援を進めています。障害者の認知症の方への対応は、経験がなく、スタッフで協力して実施しますが、常に難しさを感じます。しかし、数年先には他の利用者も次々と高齢化を迎えるので、今の経験の蓄積を今後の支援に生かせるように沙羅の家、しいの実社と連携して取り組んでいます。



お誕生日ケーキと手作りカード

7月末から8月の始めにかけて利用者の誕生日会が続きました。ケーキが大好きな利用者のアドバイスを得て、毎回違う誕生日ケーキを購入し、お祝いしました。

8月末にはほかの施設に通う利用者がコロナを発症し、他の利用者とスタッフに感染し、グループホーム全体が非常に厳しい状況となりました。幸いみんな重症化することなく事なきを得ましたが、オミクロン株の感染力の強さを痛感しました。早く“普通の”グループホームの生活を営めるような日常に戻りたいものです。

編集後記

第7波の影響はありましたが、少しずつこれまでに行ってきた行事を再開することができてきました。これまでよりも良いものを、一歩でも前へ。そんな思いを大切にこれからも進んでいきたいと思えます。(岡田な)

発行：社会福祉法人もえぎの会

住所：目黒区目黒本町2-7-3

(法人本部)

電話：03-5724-7153

e-mail : shiinomisha@abeam.ocn.ne.jp

